

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(52)

——第490号から第499号——

門 田 俊 夫

第490号 1712年9月22日（月曜日）

【スタイル】

あなたの土地や家や愉快的な妻。（ホラティウス）¹⁾

私は随分以前から「妻」という言葉をこの上なく感じがよく楽しい呼称にしたいとの希望を抱いて来ました。もしそうでないとしたら、すべての賢明な人たちは世の初めから今日に至るまで、考え違いをして来ているのです。イングランドにおける私たちの不幸は、快樂に対するだらしない才能を持った数少ない人たちが、良識と礼儀作法と社会的地位があるのかかわらず、これを始末に終えない欲求充足に変えてしまっていることです。実のところ、この場合、理性の境界を超えた満足感や狂気と愚行に向かう一步に過ぎません。しかし、どんなことがあっても喜びの感覚や欲求の達成感は満たされることはありません。欲求が満たされることは絶対にあり得ないのです。これは確かなことです。結婚というのは、私たち人間に可能な限り絶えず大きな喜びの場を提供するように考えられた制度です。相互の快適さと楽しみを考えてお互いにこれだと思ふ人物を選んだ二人は、その行動において、互いの弱さと成就を意識しながら、人生の終焉まで、機嫌よく思いやりを持って思慮深く寛大かつ忍耐強い生活をする義務があるのです。二人のうちで賢明な方が（常にどちらかがそうなるものですが）彼女または彼のために、この上ない神聖な義務を侵害しないように努めます。こういった結びつきが維持されますと、（私がしばしば言っていますように）、偏りの無い中立的な運命が喜びを与えてくれます。二人の境遇は絶え間なく新たな満足感を生み出す源泉となります。世間の人たちから受け入れられなくても、喜びいさんで夢中になって私を受け入れ、鬱々としている私を優しく抱きとめる義務は自分にあると考えてくれる私の最愛の人がいるのだ、と夫は言うことが出来ます。私は心の悲しみを偽って愛想よく振る舞う必要はありません。悲しみそのものが彼女の愛情に火をつけるのです。

お互いの情熱は、いったんうまく定着しますと、気質そのものにまで入り込み、ちょうど血管を流れる血液のように、優しさが滑らかにかつ静かに流れ出て来ます。この愛情が

1) ホラティウス『頌詩』2.14.21-22

いかなく発揮されるとき、無知な目は何も気づきません。しかし、愛情は変化しやすく、愛情が弱まって嫌気がさして来ますと、突然怒りだしたり、人前で溺愛ぶりをさらけ出したりすることになります。

アクサンダーとヴィラミラは多情で若く、結婚して2年になります。二人はお互いに人前でとても際立ちますので、二人と同席しますと、絶えずある種相反する意図の状態に置かれることになります。あなたがヴィラミラに普通に話しかけるといつでも、彼女は顔を背け、愛するアクサンダーに向かって返事をします。あなたが愉快的話をしますと、これもまた愛する人に振り向けられます。彼女があなたのことを誉めるときも、まるで彼の話であったかのように、彼に向かって、あのね、貴方、とても素敵だわと言います。これを見ていると、私は名高いセルバンテスを称えた伝記で読んだことを思い出します。正直者のサンチョ・パンサはロシナンテや夕食や宿について必要ないくつかの控え目な質問をしています、悲しい表情をした騎士は常に、愛するドルシネアのことを考えて、罪のない従者のつつましい発言を詩的な奇想、歓喜、高揚へと高めているのです²⁾。

一方、ディクタマスとモリアはいつも口争いをしており、二人は人前ではいつも苛立っています。アクサンダーとヴィラミラは思いのままに戯れ合えるように、みんながいなくなって欲しいと願っていますが、ディクタマスとモリアは人前でのお互いの言動について辛らつな意見を述べる事が出来るように、みんながいなくなるのを心待ちにします。

この生活状態に伴う不善の大半が態度から生じるのは確かなことです。このときの偏見は悪い方向に転じます。そして、これにより多くの幸福を期待しないで、私たちは笑って先入観を持たされます。要するに、永続的な満足感を期待したら失望するという先入観を持つことになるわけです。

分別を行動の基準にしているすべての人たちにとっては、結婚は最高の幸福を手に入れることが出来る状態だと言われます。キケロは妻に手紙を書き、子供たちについて触れるときには、愛情のこもった喜びに溢れた手紙を書きます³⁾。古代の著者たちが書き残した中で見掛けるこの種の心得の中では、私は、妻クレオパトラの美を称えたマルティアリスの警句が気に入っています⁴⁾。注釈者によると、この警句は結婚式の翌日に書かれたとのこと。妻が暑いので水浴びをする部屋に入り、彼女が水に入ろうとしているそのときに彼がやって来たようです。つぎの警句が出来たのは彼女の美と身のこなしのお陰なのです。私はこれをわが友ウィル・ハニコームにフランス語で見せました。彼は原文を理解せずにそれをつぎのように訳したのです。これはラテンの人たちよりもわが国の人たちの方が気に入ると思います。

わたしの輝かしい相方は、今では妻でも生娘でもなく、
恥じらい浮かれ、抱擁を恐れ、

2) これはダーフィーの『ドン・キホーテの喜劇的なお話』の第1部冒頭にも登場する。

3) キケロ『家族の便り』14

4) マルティアリス『警句』4.22

水の中へと逃げたとき、水がわが麗しい女をさらけ出した。
愛に溺れたわたしの目には、彼女は全身透き通って見えた。
彼女は顔を赤らめ、わたしはかすかにしたたる水をみて微笑んだ。
鏡越しに素敵なユリは光り輝き、
取り巻く宝石の中で、バラが光り輝く。
わたしは新たな魅力を目にし、飛び込んでわたしの大切な女を抱き寄せ、
不意にキスをした、水がそれ以上は阻んだ。

わが友は妻について官能的な記述をすることを認めず、「相方」という単語を使ったのです。彼が学者らしく言うには、「相方」という単語は愛人にも使え、警句により紳士らしいひねりを与えているとのこと。ところで、彼およびその他の紳士諸君に乗じて、貞節な若い女性に対する花婿が抱く情熱は、徐々に友情に変わって行き、初めて熱情を抱いたときよりももっと高度な喜びになるのだと考えざるを得ません。この事態が生じないと、とても不幸な人となり、忠実な友と一緒に享受することができるかも知れない習性が身につかないのです。妻が楽しい時間だけでなく真面目な時間をも過ごせると分かったら、妻は友情そのものでは確認されていない幸福をもたらします。スペンサーはそれぞれの愛についても公平に語り、最高の賞賛が友情にあると考えています。実際、この点については議論の余地はありませんが、友情関係を築くことで、結婚した二人の間ではこれに取って代わります。

疑念を抱くことは考えにくい、
3種類の愛が寄り集まって、
心を強力な力で分離する場合には。
いずれが優位を占めるのか、すなわち、
血の通った愛しい人への愛情なのか、
女性に対する燃え盛る愛情なのか、
それとも、美德によって結ばれた友への愛情なのか。
でも、とりわけ徳による絆が、
優しい心を強く結びつけるものと思える。

なぜなら、自然の愛情はすぐに途絶え、
キューピッドの熱烈な炎で満たされるから。
しかし、忠実な友情はこれを抑え、
これを抑制する規律が、
不滅の名声を得たいとする思いを優先させる。
なぜなら、魂がこの世のミサを支配し、
体の組織をも支配するから。

魂を愛することは体を愛することであり、完璧な金がこの上なく粗末な真鍮の上に聳えるのと同じことだ⁵⁾。

第491号 1712年9月23日（火曜日）

【スティール】

あなたに十分ふさわしい幸運が戻る。(ウェルギリウス)¹⁾

私は常日頃広く書物に目を通すことで、さまざまなことに思いを馳せ日々の労作をまとめる資格を得ています。こういった取り留めのない読書を1時間もすると、想像力の糧となる何かが残ります。この場合私が最も満足する読み物は物語です。なぜなら、そこにある真実には十分な説得力があるからです。心は当然正義を愛しますので、憐れみの対象とならない罪人が打ち負かされる物語を読みますと、魂は前半部で犯した邪悪な行為への確かな報復を喜びます。このことは私が語るよりつぎの物語を読んで貰った方が読者には理解し易いと思います。

ブルゴーニュ公シャルル、通称豪胆公が、現在はフランス王国に併合されている広大な領土を支配していたとき、隣国を迎え撃つ戦いにおいて、彼に仕えたドイツ人のクラウディウス・リンゾールトを引き立て厚遇しました。当時、ジールランドの大半は公爵領でした。シャルル公自身はとても慈愛に満ちた正義感に溢れた人でした。リンゾールトは勇気を持ち合わせていなく、寛大で疑いを持たない主人に付け入って、自分は誠実で忠実であり、正義の遂行に偏りをもたせる悪徳は何一つ持ち合わせていない人物だと見せかけました。彼の長所に好感を抱いていた公爵は、ジールランドの中心都市の総督が亡くなったとき、リンゾールトにその支配権を授けました。総督に就いてまもなく、彼は支配下にあるその町の裕福な商人ポール・ダンヴェルトの妻である大変な美貌の持ち主サッピオに目をつけました。リンゾールトは大変な女好きで、女に気に入られる巧みな手管に精通していました。彼は美女を占有することで手に入る満足感が、どれほどのものであるか分かっていましたが、気品のある人の情熱に付随する礼儀正しさや誉れや繊細さといったことには無縁でした。しかしながら、彼は浮世のことには精通していましたので。通例無力な女性たちに功を奏する言葉遣いができ、全く感動していなくても情熱的な言葉を口にすることが出来ました。彼は純潔と美を侵犯して喜ぶことが出来る残忍な人物であり、女性が大いに喜ぶ憐憫や情熱や愛情といったものは一かけらも持ち合わせませんでした。忘恩は好色な人物に不可分の悪徳です。痛ましい情欲を静めることしか考えていない彼が女性を物にすることは、必ず嫌気や嫌悪感が伴います。彼はダンヴェルトの妻への願望を達成することにし、彼女の家に入出入りして昵懇になるように試みました。しかし、彼女は彼の人柄や気質がよ

5) エドマンド・スペンサー『妖精の女王』4.9.1.2 ロバート・バートン『憂鬱の解剖』(1621) 3.1.3 にも引用された。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』3.318

く分かっていましたので、罠にはまるような機会はことごとく避けました。通常的手段ではうまくいかないと思ったこの総督は、彼女の夫を彼が町を売り渡すために公爵の敵方と通じているとの口実で逮捕し収監しました。この企みは望みどおりになり、不運なダンヴェルトの妻は、死刑執行の前日に、総督の館のホールに姿を見せました。彼女は、彼が姿を見せると、彼の足元に身を投げ出し、彼の両膝を抱え込んで慈悲を乞いました。リンゾールトは喜びを隠して彼女に目をやり、思案げに威厳を込めて彼女に立ち上がるようにと命じ、部屋までついて来るようにと申し渡しました。そしてポケットから取り出した手紙の書き主を知っているかと尋ねて、「もしあなたが夫を助けたいのなら、嘘偽りなくあなたの知っていることを私に話す必要がある。なぜなら、彼があなたに心から惚れ込んでおり、あなたにはほかの共謀者の名前とかその他どんなことも隠すことが出来ないことは誰にでも分かっていることだから」と大きな声で警告を発して、彼女を一人にしました。彼は私室に入って行きました。そしてその直ぐ後で、聴取するからということで夫人を呼び寄せました。従者には公開の場で議論するときの彼のよそよそしさが分かっていました。総督は公開の場での態度を捨てて嘆願者になり、彼女の力で簡単に取り除くことが出来る苦悩を露に見せ始めました。彼女は彼の意図が容易に分かり、涙にまみれ、邪な下心を非難し、無実の人の救済を訴えかけました。野心と同様に、肉欲は心身の機能を総動員させます。彼女にふさわしい涙、本物の苦悩、堅く握りしめる手、そして熱心に訴えかける彼女の心や姿のさまざまな変化は、すべて彼が美と認めるものであって、彼の欲望をさらに刺激するものでしかありませんでした。人間性はすべてひとつの欲望の中で失われました。彼はあからさまな言葉をいろいろ並べ立てて、あなたの夫はあなたを獲得するまでは不幸であり、夫の命の代償にすべきものはなく、あなたは明日の昼までにダンヴェルトの死か延命を申し渡さなければならない、と表明しました。この通告後、サップアが二人の話の内容が一般の人々には実際とは違って見えるのではないかと当惑しているのが分かると、従者を呼んで門まで彼女を送らせました。耐え切れない苦悩を抱えた彼女は、直ちに夫の元へ駆けつけ、看守たちに夫への総督からの提案を持参したのだと言って、二人だけにして貰いました。そして、彼に事の次第をすべて明らかにし、愛情と貞節の板挟みにあってとめどない葛藤に見舞われているのだと説明しました。通常ならあり得ないこんな出来事に遭遇したこの誠実な二人の激しい苦悩は、容易に想像できます。夫は恥辱から迫り来る死の恐怖を話すのを控えました。しかし、彼女にうっかり自分はこれには彼女の意志が何も働いていないことが分かっているのです、汚されたことにはならないと思う、と漏らしました。もっとも、彼女は自分が総督に汚されたことはまだ打ち明けていませんでしたが。彼女は彼が名誉の安否のために諦めきれない命を救うとの遠回しの許可を得て彼と別れたのでした。

翌朝、不幸なサップアは総督の元へ出向きました。そして隔絶した部屋に連れて行かれ、彼の欲望に屈しました。リンゾールトは彼女の魅力を称え、今後も関係が続けようと要求しました。そして、陽気に振舞って慇懃な言葉遣いで彼女に引き返して夫を牢から連れ出すようにと言い付けました。だが、引き続きあなたの夫が今後の密会の邪魔にならないよ

うに気を配って私の気分を害さないようにして貰わなくてはならないと付け加えました。この最後の言葉は前触れでした。彼女が牢にやって来たとき、夫はリンゾールトの命令で処刑されたことを知ったのです。

涙と悲嘆に包まれたこの女性が苦悩の真っ只中であって、ため息とか泣き言を一言も漏らさず、不幸の極致にあってもじっと深い悲しみに耐えたことは注目に値することでした。彼女は住まいに戻りました。そして、一人で無実の仇討ちをする義務のある彼にお祈りを捧げてから、密かに宮廷へと向かいました。彼女の人となりと容姿に無頓着なまでのある種重々しい悲しみを湛えていたために、公爵の面前に通されました。彼女は御前に出てくると直ちに、「偉大なシャルル様、絶えず潔白と徳を積みながら生きてきたのですが、この惨めで疲れ果てた生き方をご覧下さい。閣下にお願ひしますことは、私の受けた被害の穴埋めではなく、仇討ちをしていただくことなのです。もし苦しんでいる者を保護し、迫害者を罰することが君主にふさわしいお仕事でありましたら、私はブルゴーニュ公爵様に公爵様の偉大なお名前にとって名誉となり、私に浴びせられた汚名を払拭していただくに十分な材料を持参しています」と一気にまくし立てました。

ここまで喋ると、彼女は公爵にこの話を詳細に記した紙を渡しました。公爵は憤怒と憐憫が将校たちの振る舞いや家臣たちの成功で名誉を失うまいと氣遣っている君主に生起させるあらゆる感情を込めてその内容を読みました。

指定された日に、リンゾールトは宮廷に呼び出されました。そして、評議会のメンバー数人が見守る中で、サップアと対峙しました。公爵が「君はこのご夫人をご存知か？」と尋ねると、リンゾールトは驚きを取り戻すと直ぐに、「公爵様に喜んで埋め合わせになるとお考えいただけるなら、彼女と結婚します」と答えました。公爵はこの返答に満足したようで、その後の厳粛な儀式の間は傍観していました。儀式の最後に、公爵は、リンゾールトに「これは私の権限で君がやったことだ。君が死後全財産を彼女に贈るとの署名をしなければ、私は彼女の処遇に満足しない」と申し渡しました。公爵がこの履行の証人となりました。この二つの条項が履行されると、公爵は、夫人の方を向いて、私は今あなたをあなたの夫が豊富に授けたものを静かに手に出来る状態にさせなくてはならないと言い、リンゾールトを即刻処刑するように命じたのでした。

第492号 1712年9月24日（水曜日）

【ステイール】

残っている善なるもののすべてが、
軽率な行為でかき消される。(セネカ)¹⁾

9月18日、タンブリッジにて
拝啓、観察者様

1) セネカ『自然論』7.31.2

私は18歳の娘で、申し上げておきますが、身のこなしには細心の注意を払っており、容貌も言動も汚れひとつない娘との評判をいただいています。同時に、打ち明けておかなくてはなりません、血肉には抑制をかけていますので、振る舞いに関しましてもまったく非の打ち所はございません。と言いますのも、わたしは生来陽気なこと、賑やかなこと、自由な雰囲気、動きまわり遊び歩くことが大好きな性質なのです。ところで、私をととても不安にさせ、美德の追求に支障をきたしていますのは、殿方たちと馴れ馴れしくしている娘たちが私よりも注目されていることなのです。殿方たちはとても無思慮な痴れ者です。情熱とか愛情を抑制してきちんと習わしを遵守している女性を避け、妻であれ愛人であれ、貞節を失う寸前にまで行き、悪徳のすれすれで話をする女性を好むものです。私としましては、とても理不尽なやり方とは思いますが、女性のことに関心をお持ちの貴方様のお知恵にすぎらなくてはなりません。マームズベリーのホップズが、大陸の人は欲望にルーズな人たちよりも抑制をしていると断言しているのをどこかで読んだことがございます。このルールから行きますと、気ままな女性も分別のある女性も、年齢、機知、上機嫌さといったものは変わらないということになります。分別のある女性を選ぶ人は蓄えを期待し、気ままな女性を選ぶ人はくずに満足しなくてはなりません。可哀そうな私や私たちのような人たちが完全に無視されていますのに、言い寄られているずうずうしい女性に対する怒りを貴方様にお知らせしているわけでございます。

ずうずうしい女性の方々はあなた方男性の心の獲得を目指します。一般に、ある独特な馴れ馴れしい振舞いによってこれを成し遂げるのです。グリセラはいつも踊るような足取りをします。姉の愛の獲得を邪魔するのを渋っている妹のクレオは、姉よりも先に小走りで気楽に部屋に入って行きます。ダルシッサは冬の接近に乗じて、とても巧みに身震いをしたり、両肩をすばめたり、動きながら身をすくませたりします。こういった雰囲気の立案者であるダルシッサは、これに可愛らしい小走りを付け加えます。また、とても機嫌のいいときには、部屋の隅っこで身を投げ出しくつろぎ、品よくフープ＝ペティコートをちらっと見せます。私は彼女が自室でこの座り方の練習をしているのを知っています。実際、彼女はまるで悲劇で死に絶える女優を見るかのようにうまくこの身のこなしをし、淫らな感じは一切ありません。もし貴方様が芝居の終わりに素敵な死体が運び出されるのをご覧になられたことがあれば、ダルシッサがどんな姿で椅子に腰掛けているかお分かりいただけるものと思います。ここには、若くて躰が悪いことを売りにして自分のほぼ2倍の年恰好の誘惑者を出し抜くととても狡猾な田舎の小娘がいます。彼女は歩いてやって来るのですが、実にうまく息を切らしてやって来るわけです。母親には秘密が分かっている、娘のことをお転婆と言い、どんな若い殿方が娘に目をつけているか辺りを見回します。

ここで若い人たちの事細かな様子を数え上げますと貴紙では間に合わないほどの分量になってしまいます。でもダルセオレラのことを無視するわけにはまいりません。この人の態度は想像もつかないほど無精なのですが、愛の獲得ということではこの上なく働き者のように気を配ります。彼女は相手を燃え上がらせるまでじっと見詰める特技を持っています。彼女は相手に目をつけ、相手が顔を上げ始めると、直ちに近視になり目を半ば閉じて

相手がどこにいるか必死に見ようとします。最初に好感を持たせたいと思った人質は、すぐ近くまで接近するか完全に無視されるかのどちらかになります。いろいろな半眼をしたり、油断無く無視したり、子供っぽい不注意な点を見せたり、傲慢に馬鹿にしたり、わざと見落としたりするこの手管は、世間にいるジロジロ見る人よりも大きな威力を発揮します。このように几帳面に愛の獲得に励んでいる女性たちのことについてあれこれ触れましたので、お馴染みのお転婆さんたちに対する不平を取り上げることにします²⁾。この人たちは一般のルールをすべて無視して、誰よりも魅力を振りまくとても効果的な方法を編み出しています。観察者様、この人たちは発展家なのです。お分かりのように、こういった可愛い方々はとても無邪気なわけです。自由に振舞っても罪がありませんので、何をしても構わないのです。子供たちがやるのを見掛けられたに違いありませんが、彼女たちは綱の上に乗れ、訪れた殿方がそれを揺すります。戯れに誰某は誰某婦人のストッキングの色を当てます。すると、婦人は、彼は嘘つきのこそ泥だといいます。彼は悪ふざけが過ぎるのです。婦人は賭けをします。そして妹が正解を言います。彼はガーターの色までは当てることが出来ません。この気晴らしでは、ペティコート紐がほどけて落ちてしまいかねないほどの可愛い悲鳴があちこちから起ります。無作法な行為にならないように細心の注意を払う必要があります。婦人を振り回す恋人は、彼女が靴を脱ぐまで服を帽子のリボンで結わえておかなくてはなりません。

さて観察者様、貴方様が初期段階でのこの戯れに注目し、真面目なわたしたちを明るみに出していただけないと、手の施しようがありません。わたしたちも時流に乗らなくてはなりません。媚を売る女たちは、わたしたちにとっては手強すぎます。規則的で嫉のよい女性の長所を覗き見るのは退屈なことです。賢明なお説教の伴わない淫らで取るに足らない歌が愛情を獲得します。彼女たちと戦うしか方法はありません。戦わないとすれば、わたしたちは彼女たちの仲間に転向しなくてはなりません。わたし自身はどうかと言いますと、こんなに長い間呼びがかからないほど魅力の欠けた人間ではないのだということを世間にお見せします。もし貴方様が、みなさんの言うわたしたち「堅物」を直ちに償ってくれる方策を講じていただけないとしても、いざとなれば、わたしは表情豊かな物腰で動いたり、意味ありげな視線を投げかけたり、舌足らずな言い方をしたり、だらりともたれかかったり、はっとしたり、顔を赤らめたり、怒ったり、泣いたり、イングランドのどの女性にも負けないくらい愛想よく怯えたりすることが出来ます。すべて貴方様の観察者としてのご考察をお待ちいたします。

敬具

マティルダ・モヘア

2) 「お転婆さん」については、第71号参照。

第493号 1712年9月25日(木曜日)

【ステイール】

どういう人物か完全に分かるまで誉めてはならない。
ならず者は、己の欠陥を自分のものにしてくれた
ということで賞賛した。(ホラティウス)¹⁾

この町で人の手から手へと渡っている推薦状や互いになすり合っている悪口について考えることは愉快的思索となります。実のところ、推薦される人物の長所を証明しないで、その推薦状を真剣に読んでみると、「この手紙の持参人は小生にとっては実に扱いにくいので、彼を引き取っていただくことは貴殿の慈善行為となります。貴殿が彼を気に入るか入らないかといったことはどちらでも構いません。なぜなら、小生は彼に対しては一切思いやりも義務も感じていないのですから。どうぞお好きになさってください」といったことが生じます。この点で無関心になりますと、名誉というものに関心が行きます。役に立たない人物を無害な人に押し付けるほど恥ずべきことはありません。女性は実際怨嗟にはとても敏感ですので、これに頻繁につけ込むことは出来ません。時々、女主人とお手伝いが口争いをし、互いに好き勝手なことを言い合うのを見かけますが、最後には、婦人がなだめられて部屋から出されて、とても優しい言葉をかけられます。そこで、1年半もすれば、町のどこでも同じ顔つきの奉公人を見掛けることになります。正しい作法と気立てのよさが大半の人々を不当な行為へと導くのです。大したことのない嘆願者がずうずうしく上司に迫るとき、上司は嘆願者の意に反することを口にしないように気を配り、執拗な要求にじれったくなって請合ってしまいます。この場合、推薦の由来を知るとはとても有効な質問となります。ご承知のように、志願者を御すことを専門にしている厄介な教唆者がいます。こういった紳士は、顧客に彼らの厚かましさを開示し、誰某の襲われ方を知らせることで、不完全な推薦状を提供します。彼らは誰某のほんの一かけらを手に入れ、あとは自分たちに任せてもらいたいと言います。こういった請合者があなたの仕事を引き受けると、あなたは病気になり、町か田舎を留守にすることになるかも知れません。そして、後援者が心配をするかあなたが優位に立つかのどちらかになります。数年前に、簡単に信任状を出したことで、全員を処罰したある紳士のことを教えられたことを覚えています。この人物は西インド諸島の連隊に所属しており、前任者の死亡によって、偶々植民地の司令官になったのです。彼は自分が指揮下にある全員から心底嫌われていると気づくまで、非常にあからさまに部下をしいたげました。彼はこのように、嫌われるという目的を達成したとき、みんなから受け入れられていないところで生活することに不機嫌であり、困惑を覚えているふりをして、主だった住民を集めてつぎのように伝えました。もしお前たちが私をととても賞賛しているとの証明書を出してくれば、イングランドに帰る積もりがあるのだと。植民者たちは、推薦状の中に、公正、寛大、勇気といった全く逆の言葉、

1) ホラティウス『書簡詩』1.18.76-77

さらには植民地のすべての人々から愛されていると書き入れました。この紳士はイングランドに帰って行き、数ヶ月すると、彼らの証言のお陰で総督となって戻って来たのでした²⁾。

実際には、こういった非難は人の手から手へ伝わる通常の事柄の場合の簡単な推薦状では起り得ませんが、信頼した人物が偽者で、不誠実で、推薦されたことと異なるとすれば押し付けられた人は大変な我慢を強いられることになります。

道楽者のテンプルのジャック・トーパーに関しては、この点では誠実な物堅さを備えていますので、私は大きな希望を抱かざるを得ません。以前ジャックのもとにいた召使に会い、彼を引き取ろうとしている彼の友人が、ジャックがこんな軽率な人間は気に入らないということだったので、どんな欠点があるのかと問い合わせをしました。ジャックからの返事は以下の通りでした。

前略

私のところにいたトマスは、私に親切過ぎるために見捨てることにした。何しろ私は居酒屋暮らしをしているのでね。この男は規則正しい謹厳な堅物で、2時までには寝ることを重視するのだ。ある日、私が着替えをしているとき、私が晩にディナーに行き、朝2時に夕食に行ったので、今頃は死んでいないかと心配ですと彼が言ったのだ。私たちはある晩少し酔っ払ってエセックス・ストリート³⁾を歩いていた。私は彼に夜回りに気をつけるようにと声をかけると、厚かましくもこれは法律違反ですよと言った。結婚してこの方、丸々1週間同じような生活をしている君は、おそらく、彼のことを気に入るだろうし、彼もまた「定刻通りに食事を与えられる」⁴⁾ことを喜ぶだろう。この男は実に誠実なのだ。奥方にもどうぞよろしく。

草々

ジャック・トーパー

さて、この対応はとても公正な扱いでした。秩序を守ることはジャックの供回りとしては厄介なことですが、ルールを守った暮らしをする風変わりな人たちの間では、貴重な資質であることが、ジャックには十二分に分かっており、分別と善良さを備えているので、元気一杯の行動について回るには不適だからということで、彼を飢えさせることは出来なかったわけです。

本日の紙面はクラウディウス・ネロに宛てられたホラティウスの推薦状で締め括りたいと思います。この手紙では、これ以上彼の寛大な言葉を拒否できない強い理由を述べるのを尻込みしていることが伺えます。また、依頼されたことに応じることが推薦する人物の

2) ダーネル・デイヴィス『西インド諸島に関するスペクテイターのエッセイ』によると、この人物はサー・リチャード・ダットンだったかも知れないとのこと。

3) エセックス・ストリートは、聖クレメント・デーンズ教会近くのスランドから南に走っていた。

4) 『詩篇』第145篇 第15節。

ためになることも伺えます。拒否を申し出る理由があるように依頼すると、正義および正しい作法双方において、必要な事情が揃います。実際、厳密にはそれ以外のことは依頼してはいけないのです。偉人たちとの接し方を完全に理解しているホラティウスの威光が、身分のある人たちの才覚を改めることに効果的であること、さらに長所を持たずして志願する人たちの自信につながることを期待して、この書簡を翻訳して見ました。

クラウディウス・ネロ殿⁵⁾

この手紙を持参して閣下を訪ねますセプティミウスなる人物は、私の友情をお認め下さっている仕事に十分精通しています。閣下は友と召使を選ぶことでは慎重でありますが、この人物が閣下に受け入れられるように私から推薦して欲しいと依頼されたとき、私と閣下が親しい関係であることを承知しており、私が私自身のことよりも彼のために尽くしてくれることが分かっていたのです。閣下にお仕えしたいという彼の大望に対して、私はこれまでずっと自分の立場を守って来ました。しかし、さもしいわがままな考えから閣下への私の力を隠しているとの汚名を浴びせられるのを恐れて、ついに閣下にご面倒をお掛けすることにしました。そこで、より大きな欠陥が明らかになってはいけませんので、つぎのことを付け加えておきます。もし友人のために控え目から逸脱することを閣下にお許しいただけますなら、どうかこの紳士に関心と友情をお掛け下さい。彼は誠実で勇敢な人物であることは保証します。

敬具

第494号 1712年9月26日(金曜日)

【アディソン】

一体全体最も嫌悪すべき憂鬱を激賞するとは、
どんな哲学者の派に属しているのか？(キケロ)¹⁾

一昔前、敬虔だと考えられた人は誰でもできるだけ尊厳な表情を保ち、特に快樂のしるしとみなされる陽気で愉快だと見られないようにするのがイングランドの流行でした。聖人は悲しげな表情をしているものであって、たいてい、不機嫌で陰気のかたまりでした。最近学問の世界に光彩を添えた紳士から、当時学寮長だった非常に著名な組合教会派の牧師から聞いた選抜の様子を何度も聞かされたことがあります²⁾。当時、この紳士は文壇で

5) ホラティウス『書簡詩』1.9 手紙の受取人はアウグストゥスの女婿ティベリウス。後にアウグストゥスの跡を継いで第2代ローマ皇帝(A.D.14-37)となった。

1) キケロ『トゥスクルム叢談』4.25.55

2) ニコルスによると、この紳士はアンソニー・ヘンリー(1666-1711)で、有名な組合教会派の牧師はモードリン・コレッジの学寮長トマス・グッドウィン(1600-79)とのことだが、生年からして両者の接点はない。トマス・グッドウィンは、1649年クロムウェルからモードリン・コレッジの学寮長に任命され、クロムウェルが病気になる、彼お付きの牧師として、彼のために祈りを捧げた。王政復古になると、オックスフォードの職を奪われ、亡くなる1679年までロンドンの組合協会派の

駆け出したばかりの若者で、ラテン語とギリシア語を身につけて大学に入る準備をしたところでした。彼は友人たちから近づいている学寮の選抜で選試しをしてみるようにと勧められました。ここの学寮長が前述の組合教会派の牧師だったのです。この若者は、慣行にしたがって、試験を受けるために学寮長のもとに出向きました。ドアのところには、当時流行していた陰鬱な世代に属する従者が一人待ち構えていました。この従者が一言も言わず真剣な表情をして、真昼でも暗く、ロウソク1本しか灯っていない長い回廊を連れて行ってくれたのです。彼は陰気な部屋に少し待たされてから、真っ暗な部屋に通されました。その部屋でしばらくロウソクのかすかな光で慰めていますと、やっと学寮長が奥の部屋から入って来ました。頭にはナイトキャップを六つ乗せ、顔にはぞっとするほどの敬虔な表情を浮かべていました³⁾。若者は身震いしました。学問がどれほど向上したかではなく、どれだけ慈悲心に満ちているか尋ねられたとき、恐怖が強まりました。ラテン語とギリシア語はほとんど役に立ちませんでした。彼はもっぱら魂の状態について話をするようになりました。選抜されるかどうかは別問題でした。信仰上の目覚めの契機となったのは何か、それは月のうちのどの日でどの時刻のことなのか、それはどのくらい続き、いつ成就したのか、などなどを説明したのです。試験のまとめは、短い質問、つまり、「死の準備はできているかどうか」という質問でした。誠実な両親に育てられたこの若者は、この試験のやり方の厳粛さ、および、最後の恐ろしい質問にびっくり仰天しました。そのため、この喪に服した家から脱出したとき、この恐怖を経験しないために、再度試験を受けるために出掛けて行くことは出来ませんでした。

宗教のこういった慣行や見掛けは私たちの間ではすっかりすたれていますが、生来陰気な性質とか敬虔に対して間違ったとらえ方をするとか思慮が足りないとかで、この不快な生き方をし、悲嘆と憂鬱の餌食になる人たちが大勢います。迷信深い恐怖や根拠の無い疑念が交際することの楽しみや罪がないだけでなく面白い社交上の気晴らしをすべて閉ざしてしまいます。まるで陽気が無節操になることであり、快活さがそれにふさわしい人物を認めないかのように閉ざしてしまうわけです。

ソンプリアスはそういった悲しみを湛えた人の一人です。彼は悲しく陰気にするのが自分の義務だと考えています。彼は思いがけなく笑い出すことを洗礼の誓いへの違反だと見なします。彼に名誉ある肩書きまで上り詰めた人のことを話すと、お祈りの仕草をします。公の儀式について語ると、首を横に振りますし、陽気な供回りのことを喋ると、神の祝福を祈ります。生活にほんの少しの彩りを添えるものはすべて、華やかさであり虚栄となります。陽気は淫らで、機知は不敬となるのです。彼は活発な若者、ふざけている子供を見ると憤慨します。洗礼や結婚の宴の席に着くときは、まるで弔いの席に着くかのようです。愉快なお話の結末ではため息をつき、他の人たちが楽しくなると敬虔になります。結局、

集会で説教をした。

- 3) ロバート・ハレー（『トマス・グッドウィン作品集』1861）によると、トマス・グッドウィンは脳をかばうためにナイトキャップを愛用したとのこと。

ソンプリアスは信心深いのであって、もしキリスト教が広く迫害されたときに彼が生きていたとしても、まさにふさわしい振舞いをしていたことに違いありません。

私はこういった人々を偽善だと責める積もりは毛頭ありません。人の心の秘密が分かる人は、露骨にその証拠を見せるようなことはしません。それどころか、常習的な心の悲しみに打ちひしがれている優秀な人は大勢いますので、こういった人は非難というよりもむしろ同情されて当然なのです。しかしながら、自分たちの振舞いが人々に信仰心に厚い生活を思い止まらせていないかどうか考える方がいいと私は思います。非社交的になってしまいますと、あらゆる喜びや楽しさを奪い、外観は暗くなり、存在そのものの喜びを減ぼしてしまいます。

私は以前本紙で、信仰における快活さはいかに素晴らしい性向か、快活な心の持ち主は素敵であるだけでなく賞賛に値するかを明らかにしたことがあります⁴⁾。要するに、信仰心は無愛想に示す人たちは、モーセから約束の地を見つけ出すために送り出された斥候に似ているのです⁵⁾。斥候たちの報告によって、人々はそこへ入ることを思い止まったのです。幸福な状態で自然に湧き上がる喜び、快活さ、愛想のよさを表に出す人たちは、ブドウの房や美味しい果物を持ち帰る斥候に似ています。人々はこういった果実を産する心地よい地へと誘われるものです。

異教徒の著名な筆者は、神の存在を認めない無神論者を認めている人ほど侮辱しないが、自分が人間性にとって残酷で容易に喜びを見せず手に負えないと考えているのだと書き記しています。彼はこう言っています。プルタルコスは無愛想で移り気であるいは冷酷なやつだと言われるくらいなら、プルタルコスなる人物は存在したことがないと言われる方がましだと⁶⁾。

論理学者たちの言うことを信じれば、人間とほかの生き物との違いは笑いの能力だということです⁷⁾。人間は陽気さを受け入れる心を持ち、自然に笑いを浮かべるものなのです。美德の本分は、感情を一掃するのではなく、感情を規制することにあります。加減し抑制するかも知れませんが、喜びを追放することは意図されませんでした。信仰心は喜びの範囲を狭めますが、信奉者が自由に活動するだけの余地は残っています。神についての瞑想や美德の行使は、それ自体喜びを排除するというよりはむしろ絶え間ない喜びの源泉となります。端的に言えば、真の信仰心は、魂を鎮めるだけでなく元気付けるのです。実際のところ、真の信仰心は軽率な振る舞いとか非道で自堕落な浮かれ騒ぎといったものをすべて追放しますが、その代わりに、心を永遠の静穏、絶え間ない快活さ、さらには自分自身が喜ぶだけでなく他人をも喜ばす気持で一杯にしてくれるのです。

4) 「快活な心の持ち主」については、第381号、第387号参照。

5) 『民数記』第13章。

6) プルタルコス『迷信について』10 (『モラリア』170A)

7) 「笑う能力」については、第249号参照。生き物の中で笑う能力が授けられているのは人間だけだとされた。

第495号 1712年9月27日（土曜日）

【アディソン】

いまどこか寒い山上の檜の木のように、
 すべての傷口に芽が出て生長する、
 新たな活力が斧と剣を与え、
 その荒廃によって生き返る。(ホラティウス)¹⁾

私は職業上、すべての人々を研究対象とせざるを得ませんが、その性格あるいは生き方に何か目新しいとか並外れたものがある人ほど満足させてくれるものではありません。そういうわけで、私はしばしば「ユダヤ人」と呼ばれる民族について思索をめぐらせます。旅行で通り掛かったいろいろな町で彼らに遭遇したことがあります。実際、ユダヤ人は世界各地の商業都市に散在していますので、遠くかけ離れた国の人々がお互いにお付き合いをする媒介人となっており、人々を広く結びつけているのです。彼らは巨大な建物の杭や釘のようなものです。杭や釘はそれ自体評価されることはほとんどありませんが、全体の構造を維持するためには絶対に欠かすことは出来ません。

いつものやり方に陥らないために、ユダヤ人について、人数、離散、宗教への信奉の3点から考えて見たいと思います。そしてその後で、この3点に、生来の理由、神の理由がどのように割り当てられているか明らかにしようと思います。

ユダヤ人は多くの人々から、現在もかつてカナンの地にいたときと同じくらい数多く存在していると考えられています²⁾。

何名かのローマ皇帝が行った恐ろしい虐殺のことを考えると、これは驚異的なことです。史家によると、年間数十万人が死亡し、世界中のキリスト教国だけでなく、トルコでも数え切れないほどの虐殺や迫害を受けたとのこと。時折生じた大破壊について述べるために、ラビたちは例の誇張した言い方で、聖なる血が奔流となって周囲100ヤードに渡る岩を3マイル以上も離れた海へと押し流したのだと告げています³⁾。

注目すべき二点目は離散です。彼らは東洋のあちこちにまで群れをなして移動し、はるか離れた中国に定住しました。ヨーロッパやアフリカの国々にまで及び、西インド諸島にまでも行きました。ユダヤ人著者の言うことを信じれば、プレスター＝ジョンの国と接する諸国は言うまでもなく、アメリカの内陸部にも移り住んだのです⁴⁾。

特にあらゆる所で迫害を受けたり侮辱されたりしたことを考慮すると、彼らの宗教への

1) ホラティウス『頌詩』4.4.57-60

2) ジャック・バナージュ『ユダヤ人の歴史』1708。ジャック・バナージュ（1653-1723）は、フランスのプロテスタント神学者・外交官・歴史家で、ナントの勅令破棄によってオランダに逃れた。

3) ベイル Barcochebas「物凄い力で血が流れ、重さ4ポンドの石をも流し、4マイル離れた海まで流れ込んだ」

4) プレスター＝ジョンは中世の伝説上のキリスト教修道士で、アジアまたはアフリカのどこかで国王になったと言われる。

確固たる信奉も数や離散と同様に注目すべき点です。約束の地では王の元で礼拝堂の見えるところで暮していたのですから、彼らがしばしば棄教したことを考えると、これもまた注目に値します。

つぎに、ユダヤ人にとって、他の宗教や人々にはない以上3点が生じる生来の理由とは何かを考えて見ますと、まず気づくのは、彼らの人数が減っていない理由として、絶えず仕事に就いていたこと、戦争をしなかったこと、そしてとりわけ頻繁に結婚したことをあげることが出来ます。なぜなら、ユダヤ人は独身を呪われた状態と見なし、一般にメシアつまり救い主が自分たちのもたら現れることを期待して20歳までに結婚するからです。

ユダヤ人の世界各地への離散は、その原因を説明することはさほど難しいことではありませんが、注目すべきは2点目です。彼らは礼拝堂と聖都を持っていた間、絶えず暴動に巻き込まれました。そのため、しばしば約束の地にあるそれまでの住まいから追い出されたのです。彼らはまた定住した場所から追放されることも頻繁に起りました。これが離散を進めることになり、行き着いた場所で生計の手段を求めざるを得ませんでした。その上、彼らは今や仕事としてはさ迷える商人となり、しかも、各地で土地も事務所も持てず、どの地もわが家にすることは出来なかったのです。

もし彼らが組織の力で守られなかったら、宗教もおそらく離散によって失っていたに違いありません。彼らは集団になって、一般に同じ囲い込み地内で生活し、仲間同士で結婚し、生きたあるいは自分たち流に調理したもの以外の肉は口にしません。このため、彼らはあらゆる交際や最も心地よい交流を断ち、その結果、改宗の可能性を排除することになります。

最後に、神の理由は何かを考えて見ますと、彼らの人数、離散、宗教への信奉は、あらゆる時代、あらゆる国に、キリスト教信仰への強固な主張を提供して来ました。これはまさに彼らに予告されていることであり、彼ら自身が自分たちの混乱を招く予言の保管者なのだというわけです⁵⁾。彼らの人数は昔の聖書の真実を証明するに十分な証人を提供しています。離散はこういった証人を世界各地に分散させているのです。宗教への信奉によって、その証言は疑問の余地のないものとなっています。もしユダヤ人全体がキリスト教に改宗していれば、わが救世主の再臨とその歴史について語る旧約聖書の予言はすべて、きっとキリスト教徒たちが捏造したものであり、巫女の予言も彼らが予言すると触れ込む出来事が起った何年も後のことなのだと考えていたに違いありません。

第496号 1712年9月29日（月曜日）

【スティール】

わが息子はわたしと同じくらい、いやわたし以上に
こういったことを楽しむ、なぜなら、こういったことは

5) トマス・テイラーは、ウィンチェスター主教ジョナサン・トレローニーに「バナージュの翻訳」を献呈するとき、「本書の主たる目的の一つは、キリスト教を嘲笑したり馬鹿にしたりしている人々に、彼らの理解できる言葉で真理を語ることだ」と記した。

若者にこそふさわしいのだから。(テレンティウス)¹⁾

観察者殿

人生全般の私たちの行動の傾向や意図を考えながら、才能や気質について非常に的確な意見を述べる古代の人々は、それぞれの段階における欲望の傾向と対象について、交際と資産状況によって実に正確に語っています。そこで、各状況にふさわしいあまりにも熱心に愛情を追求することから生じる過剰を簡単に許容する傾向がありました。彼らは子供の軽はずみな行為には優しく対応し、若者の持つ陽気さも気立てよく大目に見、成熟した大人の過激な大望や性急さにも分別を加味し、優しいことに老人の頑強な強欲も他に楽しみがないためだとしました。こういった手加減は特定の人のためだけでなく、一般の社会にとっても利することです。というのは、人生において礼儀正さと調和を維持することによって、人間性の尊厳が支えられたからです。人間性というものは、物事の条理が逆転するとこの上ない被害を蒙りますし、弱さを見せかけの華やかさで飾ることほど馬鹿げたことはありません。そのようなことは、ただ単にもっと美点があるはずの青春を安売りするだけです。さきほどこの上なく華やかな衣服と供回りを連れたポーリノ（彼は今厄年²⁾を迎えているのですが）に出会ったために、いつの間にかこんな話になってしまいました。彼はあらゆる快楽に節度がありません。その一方で、彼の一人息子は、無邪気な気晴らしからもすべて締め出されており、父親の年老いた召使を友かつ見張り役として従えて、一人でマル³⁾を散歩している姿をしばしば見かけるのです。

自らの欲望が衰退期に差し掛かっているにもかかわらず、人生の快楽を諦めきれないのに、息子が募る欲望の衝動を抑えることがいかに困難であるか考えられないのは、ひどい思慮不足と言わざるを得ません。息子には、将来の財産および社会での立居地に見合った形で、罪のない気晴らしをさせる方がいいと私は思います。過剰に走っている若者を美德へ向かわせる第一歩は、悪徳を統御したときの評判に目を向けさせることです。生活状態の厳しさによって、若者の多くは道楽者として埋め合わせをし、いかさまやならず者になってしまいます。息子を最大限に認める父親は、息子をならず者にさせずに済みます。これは社会に出たとき非常に有益なことです。しかし、なかにはこの逆のことをする人がいます。その身分にふさわしい教育のために必要と思われることを拒む人たちを知っています。気の毒なアントニオはこの種の嘆かわしいお手本となります。この若者は生来の才能を備えていましたが、伊達男だった父親は無情で、息子を見るのも、息子が成長して立派な紳士になり、自分が陽気な社会からはじき出されることにも我慢が出来ませんでした。私はしばしば、自らの立派な家屋敷が子供の手に渡るときには、後継者の素朴さと無知を見ることで、自らの思い出を蘇らせるのだと考えて父親は密かな喜びを覚えるものと考えて来

1) テレンティウス『自虐漢』131-3

2) 「厄年」 climacteric については、第295号参照。

3) マル (the Mall) はセント・ジェイムズ公園の北側にあるバッキンガム・ハウス（バッキンガム宮殿）に通じる散歩道。第437号参照。

ました。確かに、人間というものはその気になれば、自分以外のことには関心がなく、子供さえも排除することが可能かも知れません。是非この点について貴殿のご意見をお聞かせいただきたいものです。

敬具

前略

タンブリッジから帰って来て、貴方宛のマティルダ・モヘア婦人の手紙を拝見したところです⁴⁾。彼女はその地での振り回すという気晴らしについて大げさな報告をなさっています。実際には、そんなことを行うのは親戚間だけのことであり、それもまたいそこになると振り回すようなことをする人は誰もいませんでした。彼女は楽しそうに、伊達男は女性を振り回す前には女性の足を結わえるのだと言っています。彼女は意地悪ですので、本当のことをお話します。さきほど申し上げたように、私たちは全員縁戚に当たりますので、そんなに上品にする必要はなかったのです。ところが、モヘア婦人は振り回せたのです。そこで、私は目撃証人ですが、彼女は自分の足が曲がっていることが明らかになったのでこんな悪意を考え付いているのです。

レイチェル・シューストリング

前略

1712年9月26日、タンブリッジにて

モヘア婦人の手紙が掲載された貴紙をいま読み終えたところです。初めから終わりまですべて彼女の作り事です。そこで、是非とも同封の手紙を活字にしていきたいと思います。半ページに収まる程度に縮めてください。彼女はとても無邪気に見えますが、どうしようもなくずる賢い女性なのです。彼女が彼女の父に仕える執事に恋していることは見落とさないでください。そのために、ほかの男性が彼女を遠ざけることになっているのですから。

サラ・トライス

追伸：彼女の足は曲がっています。

前略

1712年9月26日、タンブリッジにて

モヘア婦人が当地の善良な人たちのことをあれこれ言っているのは、ひとえに、ご自分の足が曲がっていることを私たちみんなに見られたためなのです。これは嘘偽りのない事実です。私は彼女に何の力もありませんので、匿名とさせていただきます。

草々

4) 第492号参照。

前略

1712年9月26日、タンブリッジにて

当地の人々についてこんなことを言う御しがたい気取り屋のモヘア婦人は、素敵な雰囲気と曲がった足をお持ちですが、子供に過ぎません。必ずこの2点については触れてください。そうしていただければ、一同大いに感謝します。

草々

アリス・ブルーガーター

第497号 1712年9月30日（火曜日）

【スティール】

この人物は古イタチだ。(メナンドロス)¹⁾

うまく注がれる好意というものは、それを受け止める人だけでなく、それを授ける人にとっても大きな誉れとなります。実際、この場合恩人の信望を高めるのは、その人が常にそれに値しない見せ掛けだけの嘆願者に取り巻かれており、相手に親切にするさいにはただ一人だということです。指揮監督する立場にいる人物の第一の資質は公正であることです。私はある老紳士が大内乱に触れ、ほかに際立った資質はないが公正さを備えた将軍が人々から愛され称えられ、あらゆる決定は双方から個別に伝えられたときのことを思い出します。双方は、彼が仲良くするようにと告げると、すぐに敵意を捨てたり、軍法会議の判断を待たないで、言うことを聞いたりしたのでした。彼は、将校任命辞令の日付はすべて秘密裏に行い、職責をまっとうできない者は例外なく職を解き、その後で、戦闘序列にしたがって昇進させるように配慮するやり方をとりました。部下はすべて味方であり、知人の支持を得ることには一切関心を持ちませんでした。彼の好意は彼らの信望の役には立ちましたが、昇進につながることはなかったのです。このため、卑俗な人々からは、彼から愛情に満ちた表情や挨拶や微笑や手を差し伸べられることがこの上なく重要に思われたのでした。彼は用件を手早くすませました。そして、はた目に勇敢だからということだけでは、公正でない人とは絶対に会おうとはしませんでした。国王には驚くべき功績をあげた人物を推挙するのです。その結果、戦闘序列は昇進へと取り替えられました。これに加えて、彼の言い方によれば、「駐軍」に長けていると認められる人物を巧みに排除しました。彼はこの「駐軍」という表現で、誰が小言を言わないで満足に過ごしており、名声を追い求めていない人たちであるかを見極めるのでした。将軍は、こういった人たちもまた、国王に推奨し、彼の手から離れ、勤勉と誠実さが欠かせない職に就かせました。この将軍は防御線には弱点はなく、全員が自らの身を守るかのように、彼を失わないために細心の注意を払いました。将校もすべて将軍の代わりを務めることができました。そこで、予見できない敵軍の並々ならぬ奮闘による事態が生じない限り、将軍は移動する必要はな

1) メナンドロス『髪を切られる女』

く、最初の配置でついた場所にいればそれで済みました。隊列から落後することがなかったのは注目に値します。実際、取るに足らない人物が指揮を取ると、世の中は秩序が乱れるものなのです。

この老紳士が将軍について述べているような行為ではなく、人々の間に生じた悪弊のすべては、権力者の好意をいわれなく求めることに起因しています。一般に、謙虚で徳高い人がやることと言えば、心からの純粋な貢献ができることに道を譲ることなのです。ポルトガルのセバスチャン王の時代、あるいは、その後しばらくは、第一大臣は知恵と厳粛さを備えた深みのある人物しか近づけませんでした。これは徹底していましたので、その深遠な知識を披露するためには、接見会で黒リボンをつけた鼻メガネを首にかけていることが不可欠でした。メガネなしの人物は接見を許されなかったのです。砲兵隊の指揮官をしているある率直で誠実な人物が日々門番に言い寄っていましたが無駄でした。そこで、彼はとても思慮深い黒の服と同時にメガネを2組準備して姿を現しました。彼は大変な敬意を払われて部屋から部屋を導かれて大臣のもとへ連れて行かれました。彼はその場を笑わせようとして、閣下に向かって、自分は実際よりも賢く見せようとしているのです、悪意があってこうしているのではなく、砲兵隊の何某であり、手押し車とつるはしをお願いするために参ったのです、と告げました。これは不快にさせることはなく、閣下は微笑んでおり、上首尾に終わった将官は、これまでと変わらず重々しく送り出されたのでした。

レオ10世が教皇の座に就いたとき、聖下は分別がありとりわけ文芸には理解がありましたが、道化師やひょうきん者や伊達男に影響を及ぼしました²⁾。自惚れから発したものがどうかが問題になりました。また、自分より劣っている人たちの才能を認めませんでした。何事につけ、彼のやり方は徹底していましたので、新しいタイプの道化を見つけ出すことが彼の楽しみとなりました。私たちの言う「恥をかかせる」そして、「自分を引き立たせる」道化を求めたのです。昔の知人である司祭は、正客として彼に近づこうと試みましたがいつも落胆するだけでした。その結果、この司祭は絶望してローマから引き籠もり、自分も召使も共に、非常に突拍子もない身なりで引き返して来たのです。法王庁の人たちは誰が最初に彼を聖下に紹介するかで競ったのでした。愚行を喜ぶ聖下の期待に添えられたのは、突拍子もない馬鹿げた服装をしたこの人物が、ご相談したい最も重要な案件がごぞいますので、二人だけにしていただきたいと申し出たことでした。非常に期待できる伊達男を拒む理由は何もありませんでした。しかし、二人だけになると、この詐称者は身分を明かし、つぎのように語りました。

教皇様、笑い飛ばす伊達男ではなく、あなたご自身の愚行を忠告するためにこんな姿でやって来ましたがつての友を見て驚かないでください。聖下にあなたが人々をいかに不当に扱っているかは、私があなたとお話しするのがこれほど難しくなっているのをご覧になればお分かりいただけるものと思います。あなたが間抜けやひょうきん者や伊達男や道化

2) ジョヴァンニ・ド・メディチは、1513年から1521年教皇の座に就いた（レオ10世）。

との会話以外に秀でることができないと信じることは、聖下ほどの知性の持ち主ではとんでもない卑下した態度なのです。もし聖下が道理をわきまえた人物としてお楽しみなさりたいのであれば、大きなチャンスがございます。あなたが目をかけていらっしゃる愚かな人々から富と衣裳を取り上げて、質素で徳高く従順な人たちにそれを授ければいいのです。かりに聖下が美德や信仰のことを気遣っていらっしゃるにしても、あなたご自身の安全のために、何卒お戯れが過ぎますのは好ましいことではないということをお考えください。教皇様がこのようにお浮かれになれますと、人々は早晩、これまで深い尊敬の念で見てきたいろいろなことがそれ自体軽蔑と嘲笑の対象だと思い始めることでしょう。人々がいったん笑い方のコツを知ってしまいますと、聖下のいろいろな発言や上履きの交換やお祈りの最中に職杖を手にとること、さらには礼拝の間に法衣を脱ぎ、またすぐに別の法衣をまとうことには、何の意味もないと見破られることになります。お考えいただきたいのです。もしそうなら、人は禿げ上がっているからといってそれだけ賢明だとは見なされません。無知な人は、いつも素足でいても天国には導いてくれないと言うものなのです。赤い帽子も外衣も等しく軽蔑の対象となります。人々は主張の力と生活の尊厳がない限り、自分たちに対する権威はないのだと私たちに面と向かって言うでしょう。

第498号 1712年10月1日（水曜日）

【スタイル】

彼らは手綱も轡も威嚇する大声も恐れはしない。
揺れる御者と一緒に突き進む。(ウエルギリウス)¹⁾

グレート・ブリテンの観察者元締めへ

デヴェルー・コート²⁾，ウィドウ・コーヒーハウスの向かい側から

月曜日の夕刻6時28分から30分

親愛なる寡黙な方

前置きなしに手短にお話します。遭遇したのですが、貸し馬車³⁾の御者が料金を決める段になると、この馬車にはご立派なご婦人方が2，3人乗っていたのですが、手を差し伸べ、一切怒らせることなく一人一人に愛想よく挨拶をしていたとお伝えすると、貴方はおそらく私がほら話⁴⁾をしていると思われるに違いありません。その濡れ衣を晴らし、この

1) ウェルギリウス『農耕詩』1.513-14

2) このコーヒーハウスについては、ネド・ウォード『ロンドン・スパイ』に言及あり。デヴェルー・コートはストランドから南に走る狭い街路。

3) ジョン・マッキーは『イングランド旅行記』（1714）において、「貸し馬車はとても便利なもので、外国ではお目にかからない。パリ、ブリュッセル、ローマ、ウィーンでは一日ないし少なくとも時間単位で借り切らないと駄目だ。しかし、ロンドンでは1シリングだせばどこでも利用できる。国会制定法では8百台に鑑札が出されており、各馬車は番号がついている。そこで、馬車に忘れ物をして安心だ」と記している。

4) 「ほら話」英語は gasconade で、英語としては比較的新しくできた言葉で、OED による初出は、タ

事態の説明をするために、シティー内には見上げた若者が大勢いることを請合います。彼らはしばしば貸し馬車を走らせることで鋭気を養っているのです。中でも私がお勧めしますのは、法曹学院（インズ・オブ・コート）の若き紳士たちです。私が思いますに、ここテンプルで事務所を構えている御者が約12人います。ほかの人たちも彼らの例に倣うと考えるのはもっともなことです、（便利だと考えることができればですが）早晚、私たちは、私たち自身の同胞の手でウェストミンスターまで連れて行ってもらうことになるでしょう。控え目に計算して5人に1人はこうやって瞑想することになります。同様に、ほかの法曹学院でもそれに釣り合った数の有望な苗木が見つかることが期待されます。その中から成長して母国の不滅の名声を獲得する人物が出て来るのです。この気風がいつまで続くのかは分かりません。私が最初にこれが目に留まったのはほぼ1年前のことでした。学問に励む若者たち数名と一緒に、ハムステッド・ヒースに出掛けたとき、私たちは純粋に瞑想に耽るためだったのですが、私もまた知識の探究を経験するしかありませんでした。何か立派な資格を身に付けようとしていましたが、ほどなくして彼らが私を説得して御者席に座らせたのです。そしてすぐにわが兄弟パेटンの運命を味わうことになったのです。ほぼ50歩程度は、私の生来の機敏さとこの感心な企てに四方八方から励まし助けの手を差し伸べてくれる指導者たちの指示のお陰で、かなりうまくことが運びました。そうです、ほぼ50歩はまずまず順調だったのですが、鞭を使わざるを得なくなったのです。それに対して馬たちが腹を立てて、突然走り出してしまったのです。そのため、私は真っ逆様に振落とされたのです。それまでの50ヤードで入手していた知識はすべて無くなっただけでなく、おまけに首の骨を折ったようでした。こういった厳しい譴責があった後では、私が簡単には二度目の試みをしなかったものと貴方は思われるかも知れません。実際、よくよく考えて見ますと、科学そのものは、少なくとも私にとって実にさまざまな困難に取り巻かれているように思えましたので、それから得られる利点は計り知れないものがあるのですが、これを達成するという希望は断念しました。これ以上は考えないことにしましたが、最近、こういった独創的な紳士が街頭で精を出すのを見掛けて、記憶が蘇って来たのです。この紳士は労力にふさわしい報いを受けるものと考えましたので、貴方はお喋りの味方ではないのは分かっていますが、どうかこの件について詳しくお伝えさせていただきますことをご容赦ください。

その後2週間ほど経過したころ、テンプル・ゲートで一服していましたとき、ファスチャン織りの上着を着た元気のよい若者が、馬車を呼び寄せて御者にチェルシーまでやって欲しいと言っているのが目に留まりました。両者は料金の折り合いがつき、若者が御者席につきま。御者はその若者をじっと見詰めながら、町を出るまで自分に御させてもらえないかと頼みました。若者は駄目ですと答えました。御者は彼の隣に乘ろうとしましたが、また遮られ、後の座席に乘るようにと命じられました。なぜなら、若者は指図を受けたくなかったからです。お前さん、絶対に私の邪魔をするのではないよ、と若者は言います。

そこで御者は鞭を渡し、頭を掻き、しぶしぶ客席に乗り込みました。同じ頃、私はストランドに行く用事がありましたので、私たちは相前後して出発することになりました。通りには多くの馬車が行き交っていました。彼はおそらく自分で思っていたほど有能な御者ではなかったので、まもなく私は彼の直ぐ前を走ることになりました。私は好奇心に駆られて、高い場所に陣取っている彼の様子を知ろうとしてさかんに後を振り向きました。聖クレメント教会を目指してまっしぐらに進むために鞭をうならせる軍隊用語で言う「関門」に差し掛かるまでは、彼は大変落ち着いていました。常時馬車が待機しているこの関門に差し掛かったとき、御者たちは口をすばめ、私にはすぐに分かったのですが、何か悪ふざけを考えているかのように、互いに目配せをし始めました。彼が関門に差し掛かるや否や、御者の一人が鞭を手にして、態勢を整えたのです。彼はそれを巧みに「裏書き」と呼ぶのでした。事実、各人は彼が射程に入ると支援するために態勢を整えたわけです。最初、彼はこの動きに少々不安を覚えたようです。そして、彼は急遽馬車の数を頭に入れました。だが、馬車に乗っていた立派な紳士の仲裁のお陰で、彼の怒りはやっと静められ、馬車を進めることが出来ました。もっとも、実際には彼らは彼が少なくともその日は御者を続けることが出来なくなるほど、邪魔立てをしたのだと私には思えたのですが。観察者殿、もしこの裏書きがしっかり書かれていなくても、判読可能だと私は思い違いをしているだけなのです。この変わった挨拶の理由を尋ねてみましたが、彼らに言わせると、よたよたと不安定な同業者を見たらいつでも、落ち着かせてやるために助けてやるのが自分たちの間では習わしとなっているということでした。私としては、彼らの言い分は至極もったもなことだと思い、そのまま馬車を先に進めたのです。御者のほかにも、独創的でたくましい若者は大勢います。彼らの気晴らしについては別の機会に譲っても彼らは気を悪くしことを希望します。話は変わりますが、もし貴殿からこういった御者に有益な助言を授けていただきますと、おそらく彼らは首の骨を折らずに済むことでしょう。貴殿は検閲官を抱えていらっしゃるとう理解していますので、ここテンプルに送り込んでいただければ、多忙を極めることは間違いありません。何卒よろしくお願い致します。

敬具

モーゼズ・グリーンバック

追伸：この界限のコーヒーハウスの批評家諸氏が「時と場所の一致」について力説しているのを耳にしました。これに関する私の考えでは、この書簡の冒頭部分でそれに配慮した積もりです。その件について情報を入れたいと考えています。次回は、優秀な船頭について報告する積もりです。彼らは法律家になるために育てられていますが、上述の陸の学生諸君をはるかに出し抜いているのです。

第499号 1712年10月2日（木曜日）

【アディソン】

あなたは戯れがすぎる。(ペルシウス)¹⁾

この半年以上にわたって、わが友ウィル・ハニコームは、私に向かって自分は『スペクテーター』で腕試しをしたい、喜んで一文を載せたいものだ、と言い続けています。今朝、彼からつぎの手紙が届きました。若干のつづり字のミスを修正して、みなさんにお届けしたいと思います。

拝啓

2日ほど前の夜、男女とても気立ての良い人たちと同席しました。そこで、夫婦愛に関する貴紙の記事の話になったとき、悪妻と悪夫、どちらの方が多いかで論争になったのです。ご婦人方の擁護者のある紳士が、その機会を利用してドイツの有名な包囲について話し出しました。その後手持ちの歴史辞典にあたってみるとつぎのような出来事だと分かりました。コンラート3世がヘンズバーグ市でババリア公ゲルフスを攻囲したとき、おそらく町が長くは持ちこたえられないと分かった女性たちは、各人が持てるだけのものを持って町から出て行かせて欲しいと皇帝に嘆願しました。女性たちにそれほど沢山の資産は運べないと分かっている皇帝は、彼女たちの嘆願を聞き入れました。皇帝が非常に驚いたことには、女性たちはそれぞれ夫を背負って出て来たのです。皇帝はこの光景を見て非常に感動し、突然泣き出しました。そして、女性たちの夫婦愛を激賞し、男性たちを女性たちに与え、快く公爵を迎えたのです²⁾。

ご婦人方はこの話をさほど喜ばず、これと同じような事態が生じた場合、グレート・ブリテンのどこかの町の男性たちは奥さんを背負っただろうかと尋ねるのです。むしろ、奥さんを厄介払いできるチャンスをあまり喜ばなかったのではないだろうかということでした。これに対して、私たち男性側の代弁者の役を引き受けているお人好しの友人トム・ダパーウィットは、男性の力は強く、荷物は軽いということを考えれば、女性を背負わなかったら責められて当然だと答えました³⁾。楽しい夜を過ごすために、こういった話をしていますと、段々退屈してききましたので、例の「質問と命令」⁴⁾という健全で単純なゲームを始めることになりました。私は王様の権限が与えられるとすぐに、ご婦人方全員に、余の不興を買わないようにつぎの質問に答えるようにと命じたのです。つまり、上記のような攻囲を受け、同じような申し入れをされた場合、各人は何を持って行くか、何を一番救いたいのか、と。私の質問に対して愉快的返答をしたものが数名いました。こうやって就寝時間まで楽しく過ごしたのです。私の頭の中には実にさまざまな考えがよぎりましたので、眠りに就くとつぎの夢を見ることになりました。

名前はないのですが、この島のある町が四方を包囲されているのです。そして住民た

1) ペルシウス『諷刺』1.40-41

2) コンラート3世が、1140年にワイズバーグ（ヘンズバーグ）を包囲したときの出来事。相手はハインリッヒ傲慢公の兄弟ゲルフ。ゲルフはコンラート3世のババリア、ザクセンでの強力なライヴァルであった。

3) トム・ダパーウィットは、第482号にも登場。

4) 「質問と命令」という遊びについては、第245号参照。

ちが直立して助命嘆願をしています。將軍は、上記ヘンズバーグで認められた条件、つまり、既婚婦人が持てるだけのものしか持ち出させませんでした。直ちに町の城門が開け放たれ、女性の行列ができ、一人一人が大きな荷物を背負ってよろめきながら列を作ったのです。敵陣の高台が女性運搬人の集合場所に指定されたのですが、私は一体どんな荷物を持ってくるのか知りたくて、そこに陣取ったのです。最初の女性は大きな袋を背負っていました。彼女がその袋を用心深く地面におろし、それを開けてみますと、私は夫が出て来るものと思っていましたが、なんと食器類が詰まっているのです。つぎの女性はハンサムな若者を背負って慎重深くやって来ました。私は若い女性の夫婦愛を称えずにはいられませんでした。ところが、非常に驚いたことに、彼女は夫を家に残し、色男を連れていたのです。少し離れていましたが、三人目の肩からは小さな皺だらけの顔が覗いていました。その顔は配偶者に違いないと思いましたが、下に降ろしたとき、彼女が「かわい子ちゃん」と言っているのが聞えました。つまり、お気に入りのおサルさんだったのです。四人目は大きな一梱のカードを持参していました。そして、五人目はボローニャ犬でした。夫は大男だったようで、彼女は小さなキューピッドの方が楽だと考えたのです。つぎは裕福な金貸しの細君で、金の袋を背負っていました。彼女が言うには、配偶者は大変な老人で、自然の成り行きから先はあまり長くはないと思われるので、夫への優しさを示すために夫が命よりも大事にしたお金を持って来たとのことでした。つぎの女性は息子を背負っていました。彼女は言うには、夫の元には有望な息子や娘を残し、神に見放されているこのどうしようもない道楽者を連れて来たとのことでした。

この不思議な夢に登場する人たちについて取り上げると際限はありません。私の周囲には装身具屋さんの街全体を埋めるに十分なほどの飾り紐や綾織物や刺繍やその他無数の品物の山が出来ました。ある女性は痩せ型の夫を背負い、大量のフランドルレースを手にしていましたが、あまりにも荷物が多すぎて両者とも救うのは無理だと考え、夫を捨て、レースを持って行きました。要するに、山のような荷物の中で、元気な靴直しの夫だけは、妻に運ばれている間終始妻を蹴ったり発破をかけたりしていました。どうも、この男は妻に折檻をしなければ一日たりとも過ごせないとのことでした。

観察者殿、私の手紙の締め括りにあたって、この夢での非常に奇妙な思いつきについてお伝えせざるを得ません。一人の男性を救うのに12人の女性がかかわっているのを見たようです。その男性が何者か推測できませんでしたが、近づいて来たら、なんとそれは貴殿の短いご面相だったのです。女性たちが明言するには、貴殿を連れているのは貴殿その人ではなく貴殿の仕事のためであり、貴殿が『スペクテイター』紙を継続するとの条件付きとのことでした。貴殿がこの夢を気に入られると幸いです。

敬具

寝ても覚めても貴殿のことを考えているウィル・ハニコムより

この手紙によると、ご婦人方は私がしばしば言っていること、つまり、ウィルは結婚についてからかいの才能を発揮する古風な才人かつ道楽者の一人であり、しばしば運試しを

するのですがうまくいったためしのない人物だということがお分かりいただけるでしょう。しかしながら、彼の手紙を却下するとしたら、この話の真相は女性の名誉のためであり、女性をののしるためには、筆者は夢と作り話に頼らざるを得ないのだと言っておかなくてはなりません。